

重点活動

	第12期の目標	活動内容	具体的取り組み
勤 労	1. 政策提言と実現		
	①組織外比率を高め、影響力を高める取り組みと意識調査の活用充実（1万部の維持）	<ul style="list-style-type: none"> ・組織外比率を高めるネットを活用した調査拡大や新たな団体との連携 ・政策アドバイザーとの連携で、調査結果の活用方法の確立 ・政策報告会の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学と連携し、学生にHP調査の協力依頼を行いました。 ・HP上の見やすい位置に意識調査バナーを配置しました。 ・調査結果が直接提言項目に反映できるように、提言項目を選択しました。 ・意識調査の設問の選択数を最大10項目に絞り込み、レイアウトの見直し、答えやすい調査用紙の策定を行いました。 ・12区分であった集計結果を12市・7郡部に細分化し、地域データを活用しやすくしました。
	②関係団体と連携した政策実現	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体との意見交換を通じて意識調査や提言内容の把握 ・県に対し要請している他団体との意見交換の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働局や経営者協会との意見交換会を実施し、群馬の雇用労働情勢の共有化をはかりました。 ・経営者協会と連携し、県と労働局に対し、労使共同提言を実施しました。
	③議員懇との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・議会や各種委員会での発言依頼と議会傍聴の推進 ・議員との意見交換の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な県議との意見交換を実施し、議会や委員会で連合政策実現に向けた共有化を実施しました。 ・ネットでの議会中継の確認はできましたが、傍聴はできませんでした。
	④産別政策の把握と政策提言への反映	<ul style="list-style-type: none"> ・産別との意見交換を通じた産別政策課題の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・産別の地域政策について意見交換を開始し、今年度の政策テーマと合致する部分は、今年度の提言項目に反映しました。
生 活 者	⑤民主党マニフェスト実行に向けた点検	<ul style="list-style-type: none"> ・議員懇顧問（国会議員）との定期的な意見交換と情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・民主党マニフェスト実行に向けた意見交換が、実施できませんでした。
	2. なんでも労働相談		
	①役職員の相談対応スキルの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・本部・教育機関研修会への積極的参加 ・地協及び産別に対するより実践形式の研修会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・労働契約法や労働相談マニュアルの活用法など、学習会を開催することで、相談対応の強化をはかりました。
②相談窓口のPR強化	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事掲載への協力要請強化と新聞広告を活用したPR ・行政との連携による相談窓口のPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・マスコミと連携し記事掲載がはかれました。 ・各種審議会や委員会で、労働相談体制の充実を提起しました。 	
支 援			

評価と課題	進捗度	後半期に向けた補強
<ul style="list-style-type: none"> ・ 2月から5月の調査期間中に、震災や統一地方選の取り組みの中でも1万部以上の意識調査が回収できました。 ・ 100%回収に向けた理解活動は、引き続き必要となります。 ・ 目標であった、男女比率5：5と6割の組織外比率も達成できました。 ・ これまでの調査結果の活用方法確立までには至りませんでした。 ・ 新たな団体の選定や連携の模索は引き続き必要となります。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過去の調査結果も含めた活用方法の検討を実施します。 ・ 一般の声を求める機会として、引き続きHP調査を継続します。 ・ 地元商店街やスポーツ団体など幅広い層からの意識調査を目指します。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 意識調査展開後の4月から7月の間で、県に対し要請している他団体を選定し、意見交換を実施する計画でしたが、震災の復旧・復興により取り組むことができませんでした。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度毎の政策テーマに沿った関係団体の把握と意見交換を実施します。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公契約条例の取り組みを全県で取り組むことにより議員との連携を深めることができました。 ・ 意識調査策定時や提言策定時に意見交換を実施し、議会情勢を踏まえた政策策定ができました。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定例議会前後を目途に、定期的な意見交換の実施で、政策実現の進捗を確認します。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度反映できなかったものについては、次年度の意識調査や提言での反映に向けた論議を進める必要があります。 	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産別との意見交換を通じた地域政策の把握を随時行い、連携強化を行います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ マニフェストに対する民主党内の対立もある中、マニフェスト論議や学習会が進められませんでした。 	20%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政権与党としての民主党の動向については、国会議員を中心に意見交換で情報収集を行います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働相談学習会等により、役職員の相談対応スキルの向上がはかれました。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談対応のスキル向上に向け、地協四役を対象としたケーススタディー中心の研修会を行います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報活動により、労働相談件数が増加しました。 ・ 新たに群馬県の広報誌や市町村の広報誌に連合群馬の相談窓口を掲載できました。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働相談件数も増加していることから、さらなる相談窓口PR強化をはかります。

*ゴシックは、12期活動のポイントになります。

	第12期の目標	活動内容	具体的取り組み
勤 労 生 活 者 支 援	③労働行政との連携・強化	・労働局との定期的な意見交換の実施	・実務者会議や 定期的な意見交換会 で、労働行政のチェックを行うとともに、労働者の立場で意見提起を行いました。
	3. 雇用・労働環境の改善		
	①若年層に対する就労観・職業観の醸成	・経営者団体との論議を通じた影響力ある提言と具体的な取り組みの展開 ・連携高校の拡大 ・組織内に対する取り組みの理解活動	・労使合同研究委員会や労使役員会で論議を行い、 労使合同提言を作成し要請 しました。 ・太田東高校「公開みらい学」へ参加・参画し、若者の就労観・職業観醸成に努めました。 ・連携高校の拡大に向けた 学校訪問や教育委員会との意見交換 を実施しました。
	②労働問題の提言に向けた労働行政への働きかけ	・群馬労働局との連携・強化 ・なんでも労働相談結果を踏まえた意見提起と要請行動	・労働相談結果を分析し、各種委員会や審議会で意見提起を行いました。
	③県内セーフティネットとPR強化につなげる法定最低賃金の設定とPRの充実	・他地方連合会との情報交換による好事例の水平展開で独自取り組み強化 ・本部との連携による積極的なPR活動の強化	・他地方連合会との情報交換により、好事例の収集を行った。 ・法定最賃を周知させる取り組みとしてチラシ配布と街宣行動による情宣活動を行いました。
	4. 非正規労働者支援の強化・充実		
	①労働相談からの組合づくり支援と組織化の推進	・組合づくりに向けた広報活動 ・組織アドバイザーとの情報共有と組織化の推進	・組織アドバイザーと連携し、労働相談からの組織化を推進しました。 ・マスコミと連携し、組合づくりに向けた広報活動や街宣活動を行いました。
	②非正規労働センターの機能強化	・機能強化に向けた論議 ・他地方連合会の取り組み事例の把握と具体的な取り組みの実行	・非正規労働センターにて、他地方連合会の取り組みを調査し、 事例の把握 を行いました。
	③実態把握に向けた調査・分析	・取り組みに向けた実態把握や分析の具体的対応	・非正規労働者の実情を捉える取り組みとして、パートタイム労働者の集いを開催し、実態把握を行いました。
	5. ライフサポート事業の充実		
	①相談体制の充実・強化	・カウンセラーとの定期的な情報交換 ・相談実績を踏まえた開催と窓口の見直しや体制の充実・強化	・定期的な情報交換を行う中で、土曜日の 相談員（カウンセラー）を増員し、強化 をはかりました。
	②新たな団体との連携構築	・新たな団体との意見交換を通じた行政や福祉事業団体との連携の摸索	・メンタルや自殺者が増加していることから、各種審議会において、 ライフサポート体制の重要性を提起 しました。
③組織外を中心としたPR強化	・マスコミへの記事掲載依頼や広報活動 ・機関紙などを活用したPRチラシの作成と展開	・マスコミと連携し記事掲載がはかれました。 ・各種審議会や委員会で、 ライフサポート体制の充実を提起 しました。	

評価と課題	進捗度	後半期に向けた補強
・労働行政へ、労働者の声を反映させることができました。	60%	・地域における問題解決をはかるため、相談内容を分析し、労働基準監督署との意見交換を行います。
・労使合同提言を要請したことで、群馬県、教育委員会、連合群馬、経営者協会で論議する委員会が設置されました。 ・群馬県教育委員会や伊勢崎市教育委員会と連携し、連携高校の拡大をはかっていますが、拡大までには至りませんでした。	80%	・労使合同提言の回答に対し、取り組み内容を確認するとともに評価をし、次回提言に向けて論議します。 ・連携高校の拡大に向け、教育委員会との連携強化をはかります。
・窓口のネットワーク強化とし、行政や関連する機関と定期的な意見交換がはかれました。	60%	・雇用情勢が厳しい状況の中で、政策制度要求項目を意識しつつ、勤労者の視点に立ったさらなる意見提起を行います。
・情報交換を行いましたが、水平展開により独自の取り組み強化は、はかれていません。	40%	・本部、他地方連合会と賃上げに向けて連携を強化し、独自の取り組み強化をはかります。
・組織アドバイザーの協力のもと労働相談を通じて組織化をはかっています。その中で、相談者との連絡を密に取るなど、信頼される支援体制が構築されつつあります。	60%	・組織化の推進にあたり、産別との情報交換会などによるさらなる連携強化をはかります。 ・アドバイザー増員や出勤日を増やすなど体制強化を検討します。
・機能強化に向けた論議までは至りませんでした。	60%	・委員会を開催し、機能強化に向けた議論の充実をはかります。
・非正規労働者の悩み等の実態把握を行い、産別との共有をはかることができました。	60%	・産別と連携を強化し、非正規労働者のニーズに対応する取り組みを行います。
・相談員の増員によって、相談対応件数が増加しました。	80%	・相談件数も増加傾向であることから、キャンペーンの増加や窓口のさらなる強化をはかります。
・群馬県健康福祉部との連携により、基金(150万)が活用できるようになりました。	60%	・相談体制の強化をはかる上でも、他団体(福祉事業団体)との連携をはかります。
・広報活動により、ライフサポート相談件数が増加しました。 ・新たに群馬県の広報誌や市町村の広報誌に連合群馬の相談窓口を掲載できました。	60%	・ライフサポート相談件数も増加していることから、さらなるPR強化をはかります。

	第12期の目標	活動内容	具体的取り組み
中小労組支援	1. トータルライフアップ活動の推進		
	①構成組織内の労働法制対応の強化	・産別との意見交換の実施 ・法改正に向けたタイムリーな学習会の開催と情報提供	・労働法制対応の強化をはかるため、労働法改正による改正内容と労働組合の対応について学習会を開催しました。
	②中小地場労組のサポートを目的とした情報提供や学習会の開催	・中小共闘センターの機能強化と情報収集・発信 ・より実効性のある学習会の検討と実行	・春季生活闘争の波及効果を目指し、構成組織の協力のもと、情報収集を行い、情報発信を行いました。
組織運営体制強化	1. 連合群馬活動の点検と強化・充実		
	①活動の点検とフォロー	・産別・地協との意見交換の充実による課題の把握と対応	・地協役員と連合群馬の地協担当副会長・副事務局長と意見交換で実態把握を行いました。
	②地協活動のあり方検討と論議を踏まえた対応	・地協活動検討委員会(仮称)の設置と論議	・検討委員会を設置し論議をはじめました。 ・他の地方連合へ出向き、他地協の把握を行いました。
	③関係議員や団体との連携強化	・関係議員や関係団体、マスコミとの積極的な情報・意見交換などによる理解の促進	・本音で論議できる体制構築に向け、定例的な開催を双方で認識合せができました。 ・マスコミとの意見交換を開催しました。
	2. 人材育成と組織強化		
	①組織強化に向けた取り組みの充実	・産別・地協との意見交換の充実 ・タイムリーな情報の提供	・新任役員研修会を開催し、連合活動について理解を深めました。 ・産別・地協代表者会議の開催。 ・震災ニュースでタイムリーな情報発信を行いました。
②次代のリーダー育成に向けた支援	・青年・女性委員会と連携した組織の枠を超えた人材交流や育成	・青年・女性それぞれの委員会での交流をはかり、合同で学習会を開催しました。	
仲間づくり	1. 組織拡大の推進		
	①組合づくりの積極的な支援	・組合づくりに伴う体制強化(組織・行政との連携や体制・対応) ・非正規労働者の支援・組織化	・労働組合づくり研修会を県内2地域で開催し学習しました。 ・組合づくりを意識した相談会を開催し、新聞折込チラシ、新聞広告を使いPRを行いました。 ・組合結成後、連合群馬ユニオンとしてのフォロー体制を強化しました。
	②未加盟組合への支援や加盟に向けたアプローチ	・定期訪問候補組合との信頼関係構築に向けた訪問 ・特別参加組織の活用やニーズ、実情を踏まえた新たな手法の検討	・フェスティバルのチラシを持参し、訪問活動を実施しました。 ・絞り込んだ未加盟組合の設定を行いました。 ・特別参加組織の活用がはかれませんでした。
③産別・地協との連携強化	・組織拡大集中期間の取り組み ・個別事情を踏まえた産別・地協との連携強化(体制)に向けた論議	・6～9月を集中期間とし、一組織に的を絞った取り組みを提案しました。 ・産別・地協と連携し組織化に結び付けることができました。 ・産別移行に向けた産別との意見交換を実施しました。	

評価と課題	進捗度	後半期に向けた補強
<ul style="list-style-type: none"> 法改正による労働組合の対応力向上がはかれませんでした。しかし、タイムリーな学習会は開催できませんでした。 	40%	<ul style="list-style-type: none"> 各産別・地協の研修会等で法改正の学習会や情報提供に努めます。
<ul style="list-style-type: none"> 実効性のある学習会として、自主交渉労組学習会を計画しましたが、実施には至りませんでした。 中小労組のニーズ調査が必要です。 	40%	<ul style="list-style-type: none"> 中小地場労組のサポートとして、闘争時の交渉に役立つよう、実効性のある学習会を開催します。
<ul style="list-style-type: none"> 課題の把握を行うことができましたが改善に向けた論議が不足しました。 産別との具体的な意見交換ができませんでした。 	40%	<ul style="list-style-type: none"> 産別との意見交換を開催し、連合活動の課題や方向性を共有します。また、地協の課題解決に向けた取り組みを進めます。
<ul style="list-style-type: none"> 検討委員会の設置で論議が進みました。 地域特有の課題解決に向けた論議が不足しました。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き地協活動検討委員会を継続し、あり方論議が必要です。 答申を踏まえ対応します。
<ul style="list-style-type: none"> 県議との考え方の共有をはかりました。また、議員懇と政策等を通じた地域での連携が概ねはかれました。 商工会等の各種団体との連合活動理解に向けた意見交換ができませんでした。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> 議員との本音論議の継続。 各種団体との意見交換を実施し、連合群馬の理解活動を進め連携構築をはかる必要があります。
<ul style="list-style-type: none"> 連合活動や連合群馬のこれまでの歴史、連合活動について共有化がはかれましたが地域での開催を望む声がありました。 震災で連合群馬の震災ニュースを作成し情報提供しました。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> 連合活動の理解に向けた役員強化研修会を地域で開催ができるよう、地協と連携を進めます。 集めた情報を効率的に発信します。
<ul style="list-style-type: none"> 前半期で産別・構成組織のニーズの把握が不足しました。 合同学習会ができました。 	40%	<ul style="list-style-type: none"> 産別や構成組織との意見交換を実施しニーズを把握します。 青年・女性委員会と連携し次代のリーダー育成支援を継続します。
<ul style="list-style-type: none"> 組合づくり研修会を2カ所で開催することができました。 時代背景もあり多くの組合を結成することができました。 ユニオン加盟組織の産別移行への支援が不足しました。 地協・産別との情報交換が不足しました。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> 結成後のフォロー体制や組織化に向けた支援体制を構築します。 早い段階で産別に協力してもらい組合づくりを進めます。
<ul style="list-style-type: none"> 未加盟組合リストから定期訪問組合を絞りましたが、数件の訪問に留まりました。 未加盟組織の組織化には至りませんでした。 特別参加組織加盟に向けた対応が必要です。 	40%	<ul style="list-style-type: none"> 相談・組織化事案が重なったため後半期は的を絞った定期訪問を実施します。 アドバイザー増員や出勤日を増やすなど体制強化を検討します。
<ul style="list-style-type: none"> ターゲット1社としての的を絞った取り組みができました。 業種が近い産別と連携をはかり、組織化に向けた意見交換を実施しました。早い段階から産別との連携構築が必要です。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> 産別との連携強化するための意見交換の場を設定します。 地協幹事会で地域の未組織企業についての情報交換を実施します。

*ゴシックは、12期活動のポイントになります。

	第12期の目標	活動内容	具体的取り組み
仲間づくり	2. 関係団体との連携強化		
	①経営団体・行政との連携強化	・労使における未組織労働者への支援のあり方の検討	・事務レベルでの経協と情報交換を行いました。
	②社労士や弁護士、関係団体等への理解活動強化	・紛争の未然解決に向けた情報交換や連合群馬のスタンスへの理解促進	・ 弁護士と連携し組織拡大に向けたアドバイスや会社側の対応について指導 をいただきました。
政治活動の強化	1. 首長や議員との連携強化		
	①関係首長・議員の拡大・信頼関係の構築	・首長との意見交換の充実や連携強化 ・関係県議との意見交換の充実	・経済対策に対する要望書の提出や労使合同セミナーへ 知事自ら参加 しました。 ・地協主催の新年のつどいで地域の首長との連携をはかりました。 ・ 県議との意見交換を開催 しました。
	②議員懇や相談役（OB）との連携	・議会傍聴や活動報告会の開催と情報の提供 ・議員懇ブロック協議会や相談役（OB）との連携・支援	・地協幹事会を利用した議員からの活動報告会が開催されました。 ・東毛・西毛ブロック協議会での研修会を開催しました。 ・ 相談役へ機関紙「あぷろうち」を送付 し連合群馬の活動・情報発信を実施しました。
	2. 政治活動の重要性の徹底		
	①政治活動強化に向けた取り組み	・政治活動強化に向けた産別・地協との意見交換の充実 ・政治に対する意識高揚と擁立組織と連携した戦略提案	・ 産別・地協代表者会議で政治活動強化に向けた意見交換 を実施しました。 ・法令遵守と政治に関心をもってもらう政治研修会を開催しました。
	②統一地方選を初めとした各種選挙への総力をあげた取り組み	・連合群馬の総力をあげた取り組みに向けた方針の立案 ・各組織への理解徹底と関係団体等との連携・調整	・組織外議員からの推薦依頼が増えてきており、 候補者推薦基準を見直し ました。 ・当選に向け県連合・産別・地協と連携し30人以上の居住者が想定される産別調整を実施しました。 ・近隣の埼玉・栃木と連携し当選に向けた取り組みを進めました。
地域との連携・強化	1. ぐんまふれあいフェスティバル		
	①組合員・地域住民のさらなる参加拡大	・企画内容の充実 ・行政・教育機関との連携	・東日本大震災を受けて、 被災地支援を前面に出した取り組みを展開 し、風評被害を受けている農・海産物を購入・販売し被災地の支援を行いました。 ・ぐんまDCや労働委員会、県労政課の取り組みPRに向けたチラシ配布をしましたが、開催PRに向けた教育機関との連携がはかれませんでした。
	②来場者に対する連合群馬の活動PRと労働組合活動の理解の強化	・来場者へのアピール強化に向けた企画内容の論議	・連合群馬の活動内容をパネルで紹介するコーナーを設置しました。
	③参加者の満足度向上（リピーターの増加）	・各世代に参加意欲を与える開催内容の企画と実行委員会での論議	・各産別の取り組みを参考にするためのヒアリングを実施しました。
	④ふれあいフェスティバルのあり方論議	・幅を設けた開催実績を踏まえたあり方の論議	・地協からの意見集約を行い、総括会議で論議しました。

評価と課題	進捗度	後半期に向けた補強
<ul style="list-style-type: none"> ・経協と組織化に向けた情報交換や支援体制構築に向けた意見交換が不足しました。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・経協と組織拡大についての意見交換を進めるとともに、行政との連携を模索します。
<ul style="list-style-type: none"> ・連合群馬活動の理解活動を展開できませんでした。 ・弁護士と連携しアドバイスを受け対応することができました。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・弁護士との連携構築を進めます。 ・関係団体へ連合群馬の理解活動を進めます。
<ul style="list-style-type: none"> ・知事自ら連合群馬の要請に極力応えたことは評価できるものです。信頼関係構築に向け知事とさらなる定期的な意見交換が必要です。 ・地域の首長と意見交換の場ができました。 ・定期的な県議との意見交換で考え方などの理解活動が進みました。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き知事や首長との信頼関係の構築、県議との本音の意見交換を進めます。 ・地域の関係議員との連携構築を進めます。
<ul style="list-style-type: none"> ・県議からの活動報告はできませんでしたが個々の考え方や政策論議を深めることができました。 ・ブロック協議会での論議ができない地域がありました。 ・相談役への情報提供をはかることができました。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・県議から定例的な報告会の開催を検討します。 ・相談役への情報提供の継続とブロック協議会へ参加要請し意見交換を実施します。
<ul style="list-style-type: none"> ・勤労者の政策実現に向けて政治活動の重要性を訴える場が不足気味です。 ・定期的に研修会を開催します。 ・組織内議員の擁立が今後厳しくなることが予想されます。 	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・組合員へ政治への理解活動強化を進めます。 ・議員と連携し若者への政治の重要性について研修会を開催します。 ・擁立産別と組織内議員意見に関する意見交換が必要です。
<ul style="list-style-type: none"> ・第17回統一地方選挙では、推薦・支持・支援候補者28人中25名の当選となり評価できる結果となりました。 ・県議との連携不足も課題として残りました。 ・もっと早い段階から産別調整が必要です。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・地協と産別、県連合で早い段階から地域内居住者等の調整を進めます。 ・12期後半期に予定される各種選挙へ連合群馬総力をあげた取り組みを進めます。 ・民主党国会議員との意見交換が必要です。
<ul style="list-style-type: none"> ・農・海産物など完売することができ、成果を上げることができました。一方で、取り組み準備にあたって地協への連絡不備により統一できなかった課題がありました。 ・群馬県の取り組みのPRを行うことができましたが、事前の調整不足のため地協との連携が不足してしまいました。 	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地の復興に向けては、長期化が想定され、次年度の具体的な取り組みの検討が必要です。 ・行政との連携に向け、事前の調整を行う必要があります。
<ul style="list-style-type: none"> ・パネルによる活動紹介のみに留まっており、連合群馬のPRに向け、来場者が集まる抽選会での有効なPRの検討をとの意見があります。 	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・連合群馬の活動PRの有効策の検討が必要です。
<ul style="list-style-type: none"> ・過去最高の5万人を超える来場があり、年々増えていることから成果が上がっている。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携を意識した取り組みの継続を行うこととします。
<ul style="list-style-type: none"> ・幅を設けた開催を共有することができました。 	40%	<ul style="list-style-type: none"> ・開催日のみならず、中身の充実に向けた論議が必要です。

*ゴシックは、12期活動のポイントになります。

	第12期の目標	活動内容	具体的取り組み
特別活動	①東日本大震災の対応	・ 救援カンパの取り組み	・ 県連合・地協が中心となって、駅頭や街頭でのカンパや行事参加者への呼びかけを行いました。
		・ 復旧・復興ボランティアの取り組み	・ 産別および県連合事務局を中心に被災地での活動を行いました。
		・ 情報の発信	・ 機関紙あぶろうちや震災ニュースでタイムリーな情報発信を行いました。

評価と課題	進捗度	後半期に向けた補強
<ul style="list-style-type: none"> 多くの組合員や県民の協力により500万円を超えるカンパを集約することができましたが、カンパ金の使途など情報提供が不足しています。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> カンパ金の使途や支援状況の情報提供を継続することとします。
<ul style="list-style-type: none"> 連合本部や関東ブロックと連携し、被災地の救援活動を行いました。 	80%	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、連合本部や関東ブロックと連携し取り組みます。
<ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動や救援カンパ、支援物資の集約状況などタイムリーに情報を発信しました。 	60%	<ul style="list-style-type: none"> 被災地の復旧・復興状況や支援状況など引き続き、情報発信を行います。

*ゴシックは、12期活動のポイントになります。